



八中だより



令和元年10月1日 10月号
調布市立第八中学校
校長 佐藤 政彦

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chofu8>

正しい日本語について

校長 佐藤 政彦

「情けは人の為ならず」は、よく聞く言葉です。私が新米教師だった頃、この言葉は「他人に情けをかけることは、本人のためにならない」という意味だと思っていました。正しい意味は、「人にかけて情けはいつか自分に戻ってくるので、他人には情けをかけて親切にするべきである」なのです。何気なく使っている言葉も、誤って使っていることがたくさんあります。

言葉の意味だけでなく、表記に関しても誤って使っていることがあります。「あらわれる」は、「表れる」なのか「現れる」なのか、「ください」は、平仮名なのか漢字なのか、「～たり」に続く「たり」などについても迷ってしまいます。学校だよりを書きながら、工藤副校長先生（国語科）には、言い回しや表記について、何度も訂正されることがあります。

さて、正しい日本語を身につけるためには、どうすればよいのでしょうか。国語の授業や他の授業を大切にすることは言うまでもありませんが、より多くの活字に触れるためにも、本や新聞を読むことをお勧めします。秋の夜長はスマホやテレビゲームから離れて、ゆったりとした時間の中で、お気に入りの本を読みふけてみてはどうでしょうか。もう少し目標を明確にしたスキルアップ法としては、漢検受験もひとつの手です。今月末には、漢検が実施されます。ぜひいつか、挑戦してみてください。実践練習としては、作文や手紙を書くこともよいでしょう。スマホのメールでは漢字変換や自動予測変換が容易にできてしまいます。時には、一字一字丁寧に心を込めて、家族や仲のよい友人へ手紙を送ってみましょう。誕生日や記念日のすてきなプレゼントになること間違いなしです。

日本語の持つ意味や表記には難解なものがあり、度々間違えて使ってしまうことがあります。日本語を使う上で何よりも大切なことは、相手のことを^{おもんばか}慮（※）することではないでしょうか。相手の気持ちになり、思いやりのある態度で言葉を交わすことです。心のこもった正しい日本語を使い、豊かな人間関係を築きましょう。

〔※慮る・・・あれこれと思いを巡らすこと、深く考えること〕



間違いやすい日本語あれこれ

- | | |
|--------------------|------------------------|
| •ご担当の方はおられますか？ | →「おる」は、他者には使わない。 |
| •恐らく彼は成功するでしょう。 | →「恐らく」は、否定的な語感を伴う語。 |
| •二人の結婚式はしめやかに行われた。 | →「しめやか」は、めでたい出来事には不適。 |
| •私の自己紹介は割愛いたします。 | →「割愛」は、自分のことに関しては不適。 |
| •おしぼりになります。 | →「～になる」は、ある状態から別の状態へ。 |
| •全然大丈夫！ | →「全然」は、打ち消しの文で使うほうが自然。 |

（正しい日本語の使い方・吉田裕子著・榎（えい）出版より）